# CAUA シンポジウム 2014 全体講評
# 「最新セキュリティ・ソリューションは本当に脅威を防げるのか」

刀川 眞
室蘭工業大学　教授、CAUA 運営委員

情報セキュリティの脅威は一向に収束する気配は無く、それどころかますます高度化・複雑化し、その影響もより甚大かつ広範囲に渡るようになっています。これに対し防御側も様々な対応を採っていますが、実運用を考えると理想論では割り切れない課題や葛藤が見られます。このような状況のもと、「最新セキュリティ・ソリューションは、本当に脅威を防げるのか ～情報セキュリティ界の権威とベンダが激突する !? ～」と題して CAUA シンポジウム 2014 が開催されました。

基調講演の一つ目は「セキュリティ対策技術はどこまで導入すればよいのか？」と題し、葛西重雄様（情報処理推進機構）にご講演頂きました。そこではシステム開発とセキュリティ確立が必ずしも融合されてない現状や、主観性を排しリスクアセスメントやリスクシナリオなどに基づいた客観的で合理的なセキュリティ確保の必要性についてお話し頂きました。

二つ目の基調講演は「大学における情報セキュリティインシデントの現状と対策」と題し、西村浩二先生（広島大学）にご講演頂きました。セキュリティ関連設備やシステムの充実と共に、学生証貸借の防止法や効果的セキュリティ教育、異文化背景を持つ留学生への対応、学外クラウドの利用ルールなど、運用面で大いに参考になる示唆を得ることができました。

続くパネルディスカッション第 1 部では、水村明博様（EMC ジャパン）、森本昌夫様（ジュニパーネットワークス）、神戸仁様（セキュアヴェイル）、佐藤元彦様（伊藤忠テクノソリューションズ）をパネリストにお迎えし、各社のセキュリティ関連製品の紹介と共に大学のセキュリティ脆弱性の根源についての指摘がなされました。

最後のパネルディスカッション第 2 部では、基調講演の講師とパネリストが一同に介し「失敗が許されない時代の、情報セキュリティ構築法を考える」と題し、広汎な討議が行われました。

情報セキュリティに関する問題の多くは、コンピュータやネットワークなどの機械系だけでは対応しきれず、必ず何らかの形で人間系の視点が求められます。そのようなことを再認識させられたことも含め、わずか半日ではありましたが、極めて実り多いシンポジウムとすることができました。